

学校教育目標	◎ 頼りっぱい学習する子(重点)	【目指す学校像】	子供の良さを発揮し意欲的・創造的に活躍する学校 生涯学習の基礎・基本を確実に身に付けられる学校 家庭・地域の信頼に応えられる開かれた学校 教職員が組織的に教育活動を展開できる学校
	○ 人のためにつきた子 ○ すすんで体をたくえる子	【目指す児童像】 【目指す教師像】	自ら考え、創造力・表現力に富んだ子供 互いを尊重し人の為に尽くす心豊かな子供 心身共に健康で活力に満ちた子供 課題解決につながる新たな価値観や行動を生み出し、社会を創造していく子供 野球型からサッカー型への経営参画 心・愛情・言葉・表情豊かな人権感覚 安全を全てに優先させる危機管理 付加価値を付け、結果に責任を持つ 人と、言葉で、心がつながる教師
前年度までの 学校経営上の成果と課題	＜成果＞ 特別の教科「道徳」の研究実践 オリンピック・パラリンピック教育における障害者理解教育の推進 日本の伝統・文化の体験と意識の向上 ＜課題＞ 先例重視、現状維持の姿勢から脱却し、組織的な学校経営を行う 教員自らが鋭い人権感覚を身に付けて人権教育を推進する ユニバーサル・デザインに基づいた授業規律など学校全体のスタイルを統一する		

No.	評価項目	評価内容	学校経営目標(具体的な方策)		評価指標 評価基準		自己評価 成果と課題	学校関係者評価 コメント	次年度の 具体的な方策例
			中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	取組指標 数値等は100%を示す	成果指標 数値等は100%を示す			
信頼される 教育の確立	1 校長の 学校経営	校長は、精度の高い地図と羅針盤をもって、学校経営方針を明確に示した上で、経営戦略 戦略の具現化に努める。	校長の教育理念・哲学を全教職員に浸透させる。	経営方針・計画の発行 職員向け校長通信の発行	推進計画…策定 改善 校長通信…毎日発行	2.5の施策…実行 7.5の目標…達成			
	2 学校の組織力	野球型からサッカー型への組織への転換を図り、チーム玉川の同僚性 協働性を高めて、全職員が経営に参画する。	付加価値を付けて職責を果たす組織を構築する。	校務分掌の再編成 経営会議・運営会議の充実	経営会議…週1回 運営会議…月1回	経営参画…全職員 個人目標達成…全職員			
	3 児童理解	児童の心に寄り添い、言葉に耳を傾け、よく観察し、感じ、一人一人の内面や特徴を把握し、課題解決を図る。	教員の抱え込みを排除し、チームで問題を解決す。	生活指導上の情報交換 事例報告に基づいた検討会	情報交換…週1回 S.Cの活用…週1回	いじめ未解決…0件 不登校発生…0件			
	4 安全管理 危機管理	児童の安全確保をすべてに優先させ、命を守るために、日常の教育活動の安全管理及び安全指導を徹底する。	最悪の初期対応を想定して未然防止、状態対応を図る。	防災・緊急対応マニュアルの改定 看護当番の充実 改善	防災計画…週1回 看護当番…毎日3回	重大事故…0件 死亡事故…0件			
	5 学校公開 情報発信	学校行事や学校公開日などの機会を多く設けるとともに、経営方針や学校状況など、有用な情報を積極的に伝える。	内容・方法・形態等を工夫して多様に公開する。	学校便り、校長通信等発行 学校ホームページの充実	学校公開…年19回 学校HP…毎日更新	参観…公開日100人 保護者から肯定的評価前回以上			
	6 地域との協働 地域参加	学校が家庭及び地域社会と連携し、外部人材の協力を仰ぐとともに、地域の行事などに積極的に参加する。	職員の地域行事参加を意図し 計画的に行う。	ボランティア会議の開催 地域行事に主体的に参加	ボラ通信…年3回 地域行事…年1人1回	ボラ…延べ150名 保護者から肯定的評価前回以上			
	7 教員の 人材育成	人材育成の推進体制を確立し、教員は自らのキャリアについて将来展望をもち、職務遂行を通じて能力開発を行う。	OJTシートの活用と校内研究を改善充実させる。	自己申告による目標設定 互いの授業を見せ合う	自己申告面接…年3回 相互授業参観…年3回	目標達成…全教員 満足度…全教員			
	8 服務の厳正 業務改善	法令等に基づき、服務規律の遵守をより一層徹底するとともに、時間のコスト意識を高めた働き方に変革する。	校務を効率化し、職務を精選し、ゆとりを生み出す。	校内体制・規定等の整備 勤務時間等の管理徹底	月残業…40時間以内 年休…10日以上取得	服務事故…ゼロ 精神疾患…ゼロ			
確かな 学力の定着	9 授業の 工夫 改善	授業改善推進プランに基づき、基礎的・基本的な知識 技能の確実な習得を目指し、指導方法の工夫・改善に努める。	学力の把握・検証に基づき 授業改善を推進する。	授業観察 評価の徹底 系統的な学習指導	推進プランの改善充実 系統的な学習指導	学力調査…全国平均 授業が分かる90%以上			
	10 主体的 対話 的で深い学び	知識・技能が生きて働き、未知の状況にも対応できるよう、自ら考え、判断し、豊かに表現できる学習を重視する。	学びに向かう力や人間性の 涵養に努める。	少人数の話し合い 自己解決の発表と検討	授業で学び合い…毎日 話し方・聞き方のルール	児童が主体的に取組む90%以上 児童が意欲的に取組む90%以上			
	11 個に応じた 教科指導	一人一人の児童の学習状況を把握した個別指導・グループ指導を工夫し、わかるまで、できるまで指導する。	習熟に応じた指導及び 支援員と連携して指導する。	個別指導の充実 くじラーニングを活用	習熟別指導…全学年 くじラーニングの導入	Q.Uによる学習意欲向上 …全国平均±0.5			
	12 学習習慣 家庭学習	補習教室で「学ぶ意欲」「学ぶ力」「学び続ける力」を育成するとともに、家庭学習を支援し、学習の習慣化を図る。	家庭学習全体計画を作成 して全校で進める。	朝学習 朝読書の強化 土曜 放課後補習に参加	朝学習 読書…週2回 放課後3回 土曜8回	家庭学習の実施…80% 補習利用…延べ750人			
	13 外国語活動	英語に慣れ親しませ、言語や文化を体験的に理解させ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	ALTやJETとの交流を通して、 国際理解を深める。	4年間の指導計画の改善 ITツールの整備充実	中学年…年20時間 高学年…年35時間	外国語活動が好き90% ※2月アンケート結果より			
	14 特別支援教育	ユニバーサルデザインによる授業を進めるとともに、一人一人に応じた指導の工夫に努め、適切な支援を行う。	全ての教員が個別指導計 画等を作成 活用できる。	特別支援教室の先行実施 外部機関との連携 協力	特別支援教室の開始 大空学級との連携…月1回	UDによる教室環境整備…全学年 個別の指導計画作成研修…学期1回			
	15 人権教育	教師自らの人権感覚を高め、自他を大切にし、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を磨く教育を行う。	児童による人権週間の充 実 改善 定着させる。	人権の花 標語等の充実 児童の人権感覚の向上	人権の花…全学年 人権標語…5年生	人権尊重意識の向上 不適切な指導…0件			
	16 規範意識	授業の姿勢、挨拶や返事など、社会性や基本的なしつけとともに、善悪の判断等の規範意識を身に付けさせる。	玉小ルールを分かりやす く発信し続け定着させる。	授業ルール、生活規律の共 通理解と指導の徹底	玉小ルールの浸透 授業規律の徹底	Q.Uテスト学級満足度の向上 規範向上…前回以上(学校全体)			
豊かな 心の醸成	17 人間関係	学校 家庭・地域で、一人一人の児童が「かけがえのない存在として大切にされている」ことを実感させる。	自己有用感を高め、児童が 個々による力を発揮できる。	縦割り活動を高学年中心に、毎週 一人一人が楽しめる計画を立てる。	児童集会…年16回 縦割り班活動…年10回	自己肯定感…90%以上 ※ふれあい月アンケート			
	18 たくましい体	体育の授業改善とともに、日常的な運動習慣を定着させ、生涯に渡って積極的に運動に親しむ資質や能力を高める。	体力調査結果を検証・活用 し、体育授業を改善する。	T.Tによる体育授業の充実 休み時間の外遊び推奨	体力調査の実施・検証 学級80%以上の外遊び	体力向上… 東京都の平均を上回る			
	19 教育相談	一人一人の居場所がある学校作り、児童の心に寄り添う相談を心掛け、一人で悩みを抱えない雰囲気を作る。	様々な人と関わりをもち、 悩みを話せるようにする。	S.Cによる多様な相談 S.S.Wによる多面的な支援	S.C面接…5学年 S.S.Wによる多面的な支援	SC通関10回発行による啓発 S.S.W活用…年10件			
	20 健康教育 食育	系統性を重視した意図的・計画的な健康と食に関する学習を推進し、児童が主体的に心身の健康の保持増進を図る。	健康教育・食育推進計画を 改善、充実させる。	健康教育・保健指導の充実 給食のルールの徹底	保健指導…年3回 もりもり週間…年3回	欠席 怪獣…減少 廃棄率…5%以内			
輝く未来に 向かって	21 東京都道徳教 育推進拠点校	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識など、内面に根ざした道徳性を高める。	考え 議論する道徳の指 導・評価方法を研究する。	考え議論する授業の実施 評価の工夫、実施と検証	公開講座…全学級 発表者以外も研究授業を実施	公開講座…150人 全学級実施			
	22 オリ・パラ教育 アワード校	ボランティアマインド、障害者理解、スポーツ志向、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚を身に付ける。	多様性を尊重し、心のバ リアフリーを浸透させる。	障害者理解の学習 体験、 障害者との交流	ゴールボール体験 障害者との交流	肯定的児童評価80% ※4・5・6年生アンケート			
	23 日本の伝統文 化事業指定校	国際社会に生きる日本人としての自覚と誇りを養うとともに、多様な文化を尊重できる態度や資質をはぐくむ。	郷土を愛し、伝統文化を継 承 発展させていくとする。	外部人材を活用して、伝統 文化に関する活動を充実	昔遊び、地域巡り 華道 茶道等	児童評価…+5.4点 ※アンケート調査による			
	24 学校図書館 書読活動	学校図書館の活用を図り、読書活動を推進するとともに、各教科等で学校図書館を利用して書読活動の充実を図る。	すべての教職員が図書館 機能を有効に活用する。	読書旬間の充実 学校図書館の改造	読書旬間…全学級 読書活動による読書の促進…月2回	読書学習…学期1回 貸出…1人月2.5冊			
	25 情報教育 ICT活用	各教科等の指導で大型TVなどのICTを活用し、分かりやすい授業や児童の学び合いの授業を展開する。	毎時間の活用(教師による 提示 児童の発表など)	情報モラルの徹底 ICTの活用充実	SS 東京+を活用した調音の実施 ICT活用…全学級	情報モラルの浸透 授業が分かりやすい			

この欄は、左記の経営目標や評価指標・評価基準に基づき、校内の部会等で、学校が自己評価を行うものです。十二月頃

この欄は、アンケート結果や自己評価等を踏まえて、学校関係者が評価委員(学校評議員)が評価を行うものです。一月頃

左記の評価結果を踏まえて、具体的な改善案を提示します。二月頃